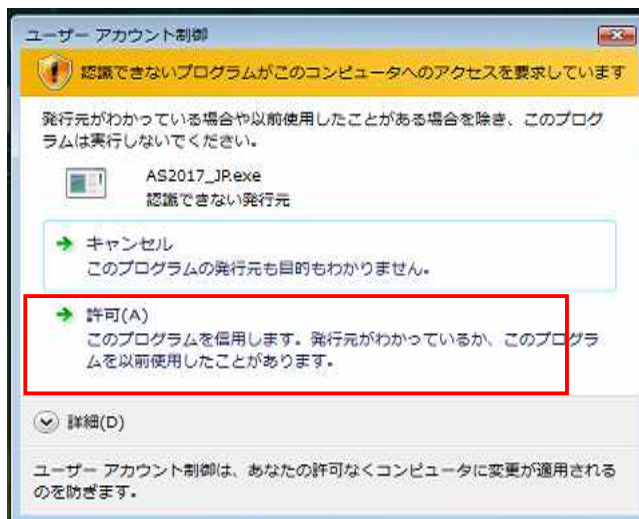
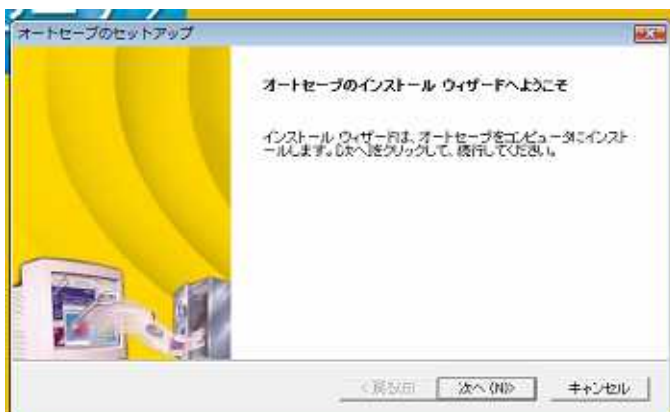


Vista 環境でオートセーブのインストールと設定方法 (カスタムセットアップ)



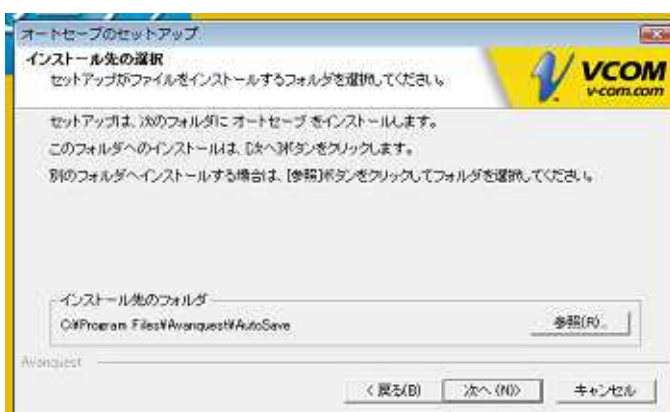
ダウンロードした AS2017_JP を実行します。「ユーザーアカウント制御」では「許可」を押します。



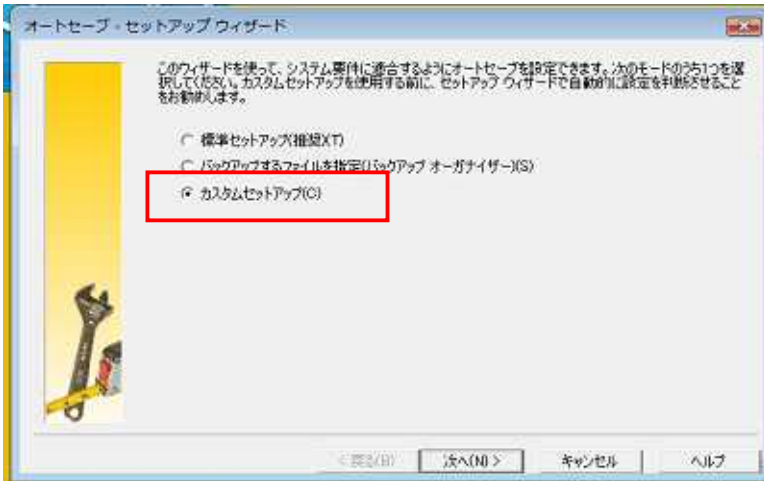
ウィザードを「次へ」進めてインストールを実行します。



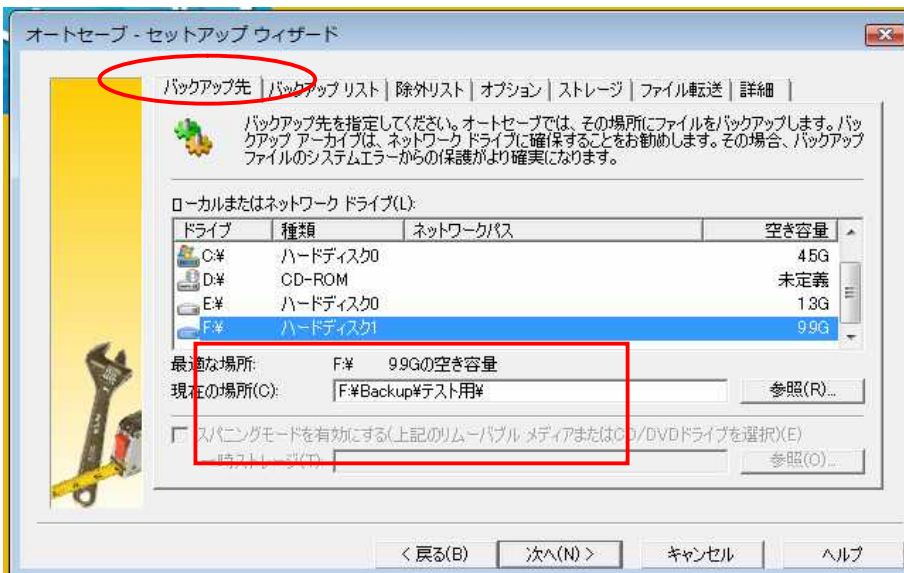
「使用許諾契約」で「はい」を押します。



インストール先は通常変更せずに「次へ」と進めます。

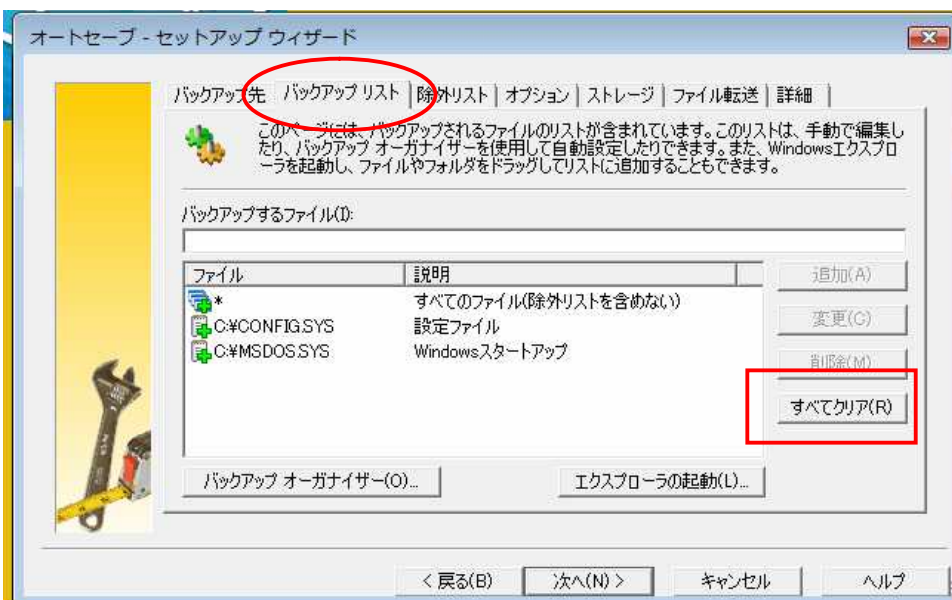


「カスタムセットアップ」を選択します。

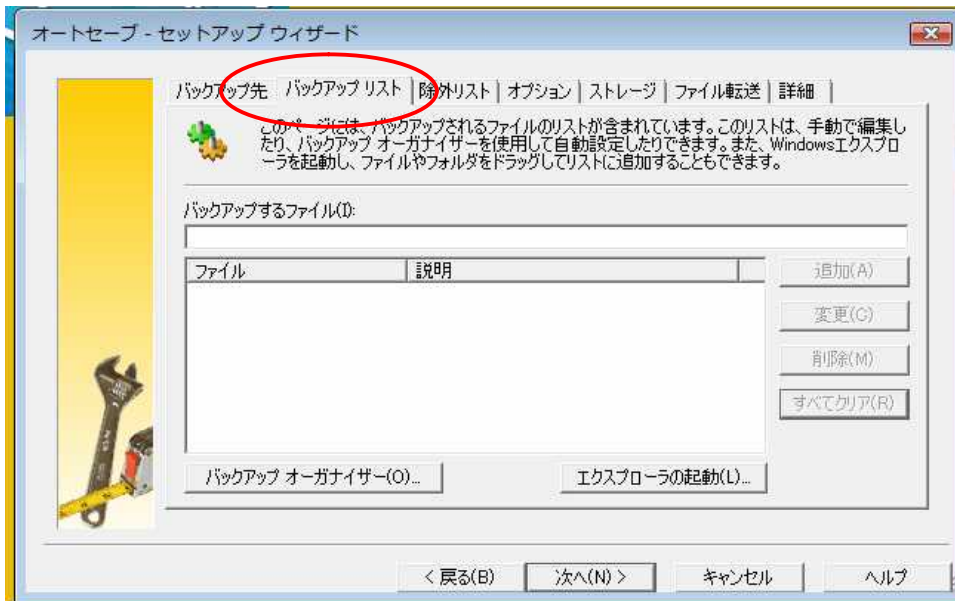


「バックアップ先」画面で、外付けハードディスクを指定します。

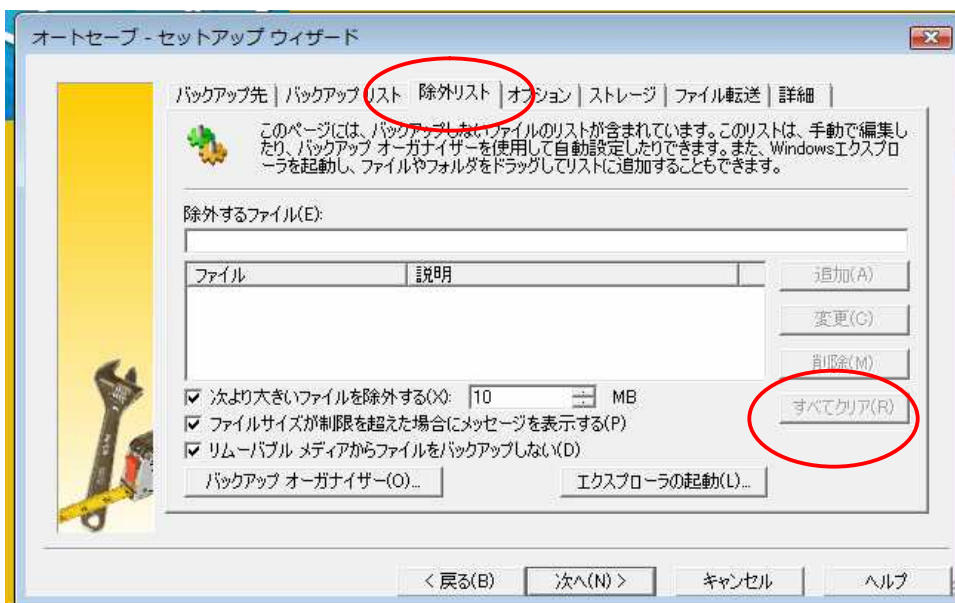
下段の「現在の場所」にバックアップ先フォルダ階層が表示されます。外付けハードディスクが F ドライブなら F:\backup\ユーザー名 が初期設定です。ユーザー名を消して F:\backup などにもなりません。



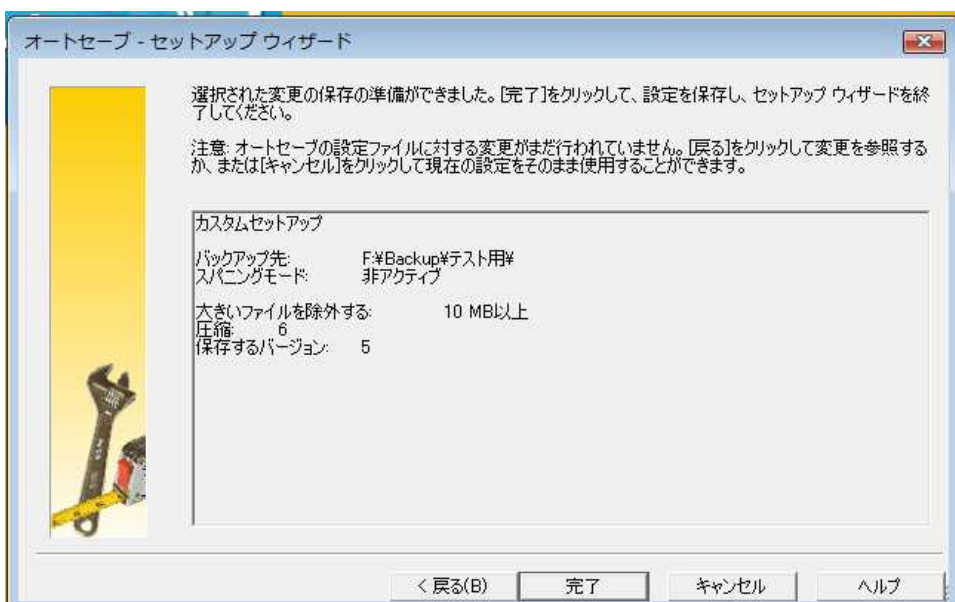
「バックアップリスト」を選択します。初期設定です。このままでは大量のデータが傅されますので、右の「すべてクリア」を押して消します。



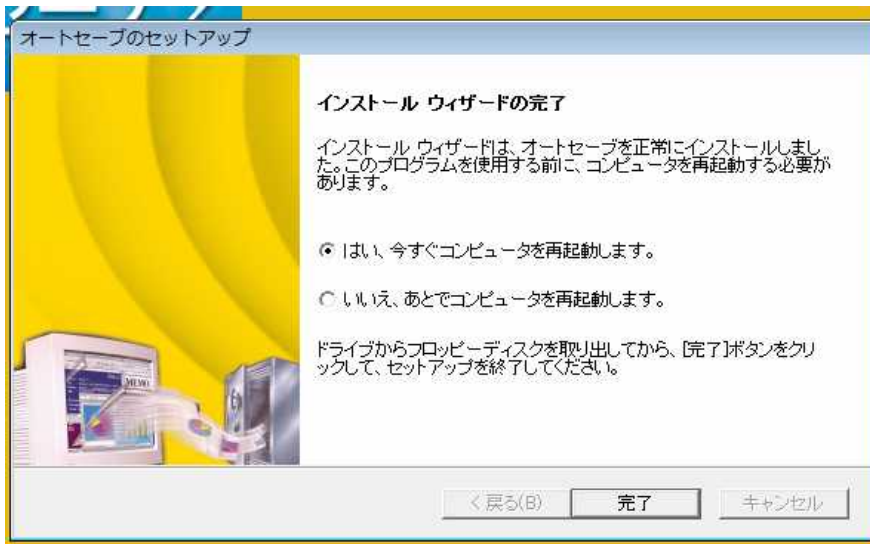
「バックアップリスト」は空になります。



「除外リスト」を選択して、同様に「すべてクリア」を押して空にします。「次へ」を押します。

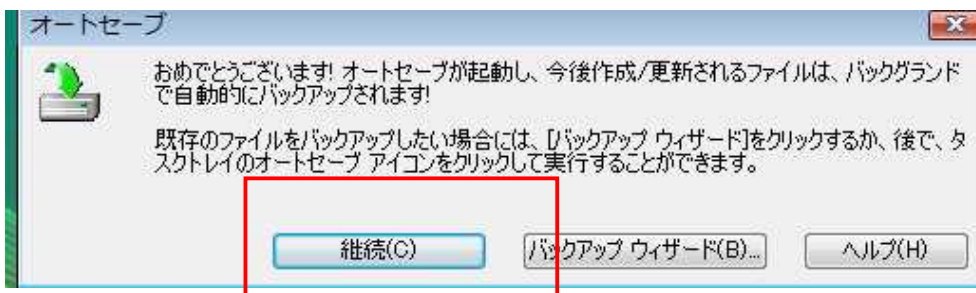


確認画面で「完了」を押します。



再起動が必要ですので、「はい、今すぐ再起動します」を選択して「完了」を押します。

自動的に Vista が再起動します。



Vista が起動するとこの画面が自動的に出ます。「継続」を押します。



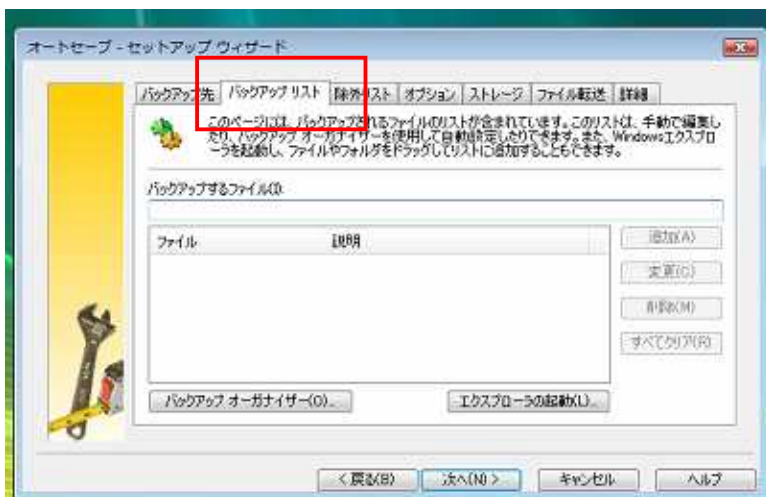
タスクトレイに「オートセーブ」のアイコンが常駐します。

ダブルクリックするとオートセーブの各「設定」画面が出ます。

「設定の変更」という文字をクリックします。



「セットアップウィザード」画面が出ますので、再度「カスタムセットアップ」を選択して「次へ」と進みます。

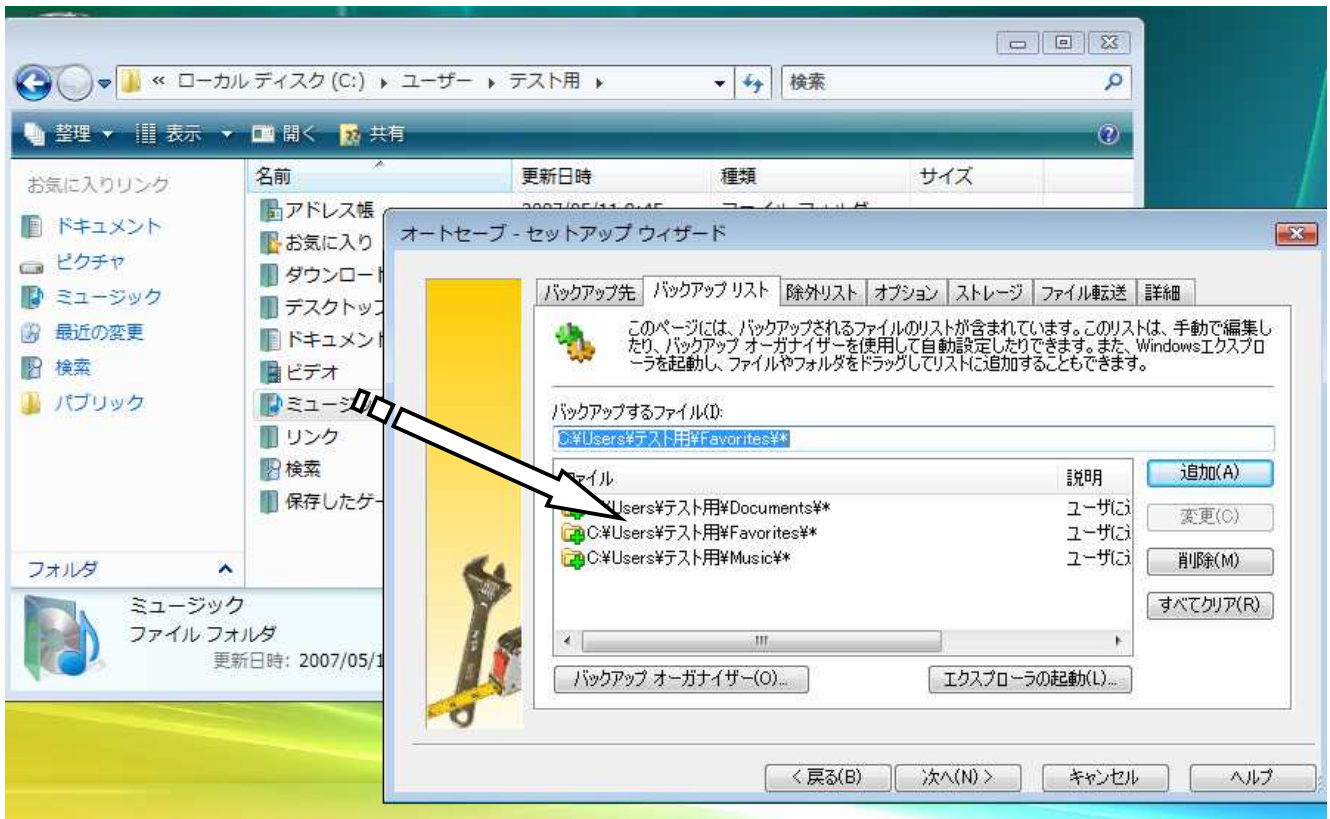


「バックアップリスト」を選択します。
画面をデスクトップの端の方に移動しておきます。

別画面にて、Vista の「マイドキュメント」や「お気に入り」等の保存先を開きます。
「スタート」-「コンピュータ」-「C ドライブ」-「ユーザー」-「お客様のログイン名フォルダ」へ進みます。



例
これが画面左の「お気に入りリンク」にあるフォルダの実際の保存位置です。
「ドキュメント」や「お気に入り」「ミュージック」「アドレス帳」等がございます。
こちらの実際の保存位置をオートセーブで指定します。

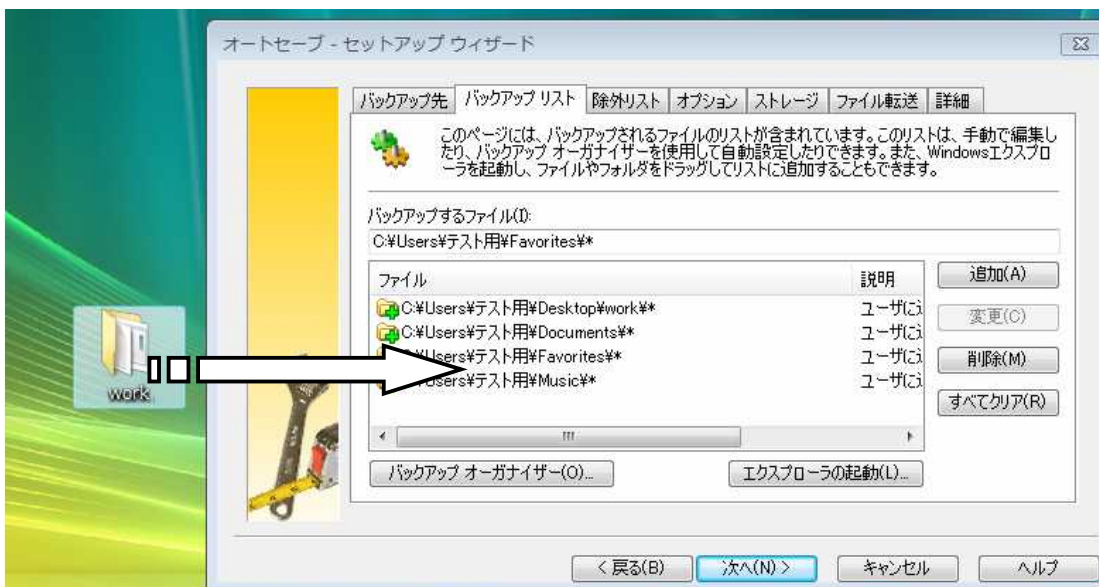


右側の「ドキュメント」や「お気に入り」をオートセーブの画面中央にドラッグします。

「お気に入り」をドラッグしても、実際のパスでオートセーブでは指定されます。

例 C:\Users\%ログイン名%\Favorites*

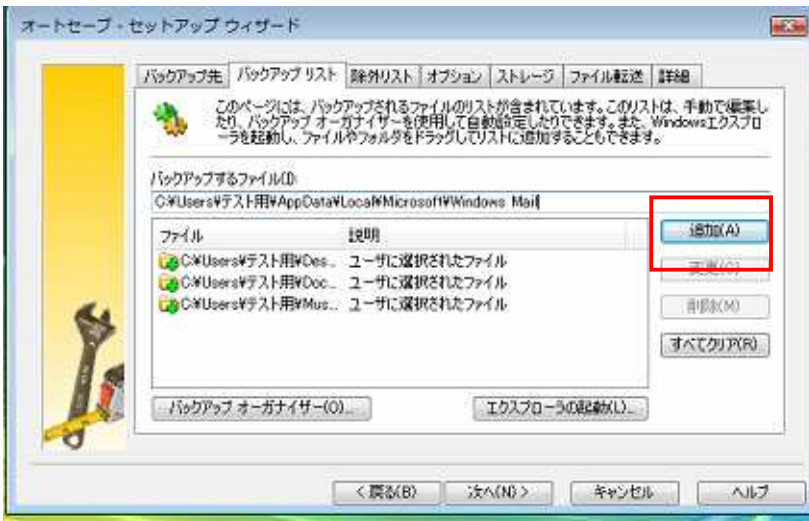
「ドキュメント」では 例 C:\Users\%ログイン名%\Documents* 等です。



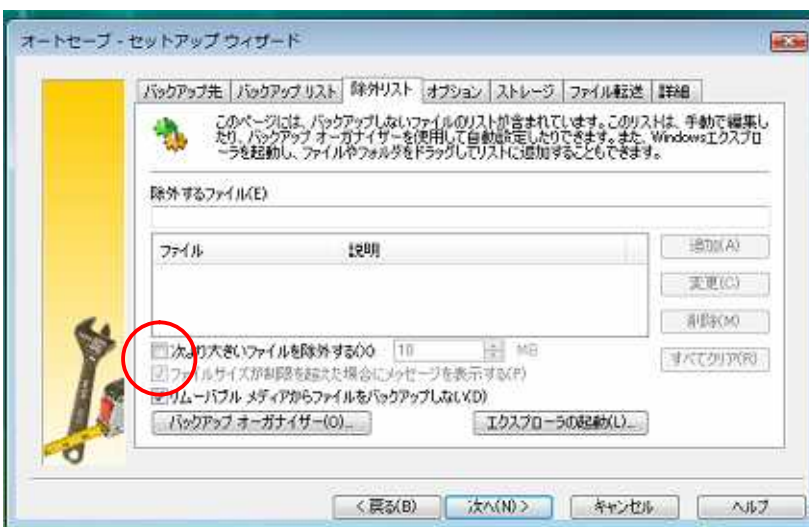
またデスクトップ等に作成した「フォルダ」だけバックアップしたいのであれば、直接そのフォルダをオートセーブ画面内にドラッグします。

Windowsメールをバックアップしたい時は「windowsメール」を起動して、「ツール」-「オプション」-「詳細設定」-「メンテナンス」-「保存フォルダ」を指定して出たパス列をコピーします。

(例 C:\Users\テスト用\AppData\Local\Microsoft\Windows Mail)



「バックアップするファイル」欄に「貼り付け」して「追加」ボタンを押します。下段一覧に追加されたらバックアップされます。



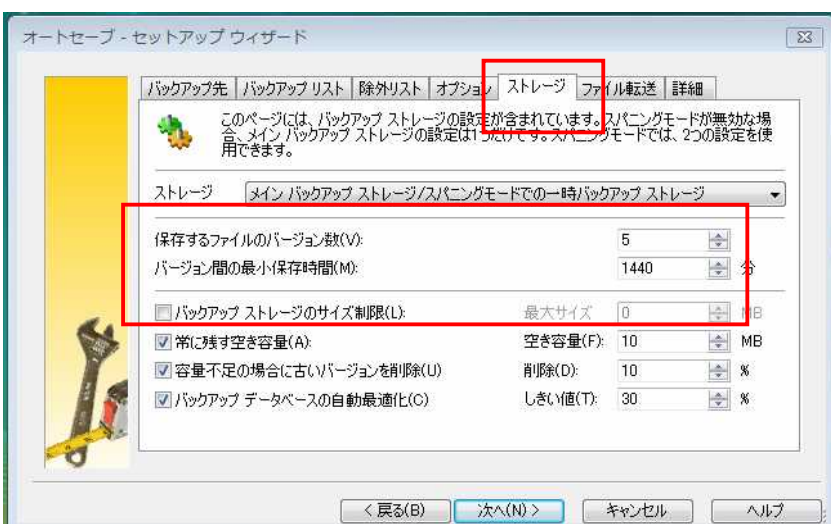
「除外リスト」を選択します。

「除外リスト」とは「バックアップリスト」に指定したもののの中からバックアップ除外対象を指定する設定です。

必要なフォルダだけ「バックアップリスト」で指定しましたので、ここは「すべてクリア」にて空にしたままです。

下部の「次より大きいファイルを除外する」10MB のチェックを外します。

バックアップするデータのバージョン数とその保存時間差の設定について
(この設定はお客様のご都合に合わせて、ご変更下さい。)



「ストレージ」タグを指定します。

「保存するファイルのバージョン数」 5

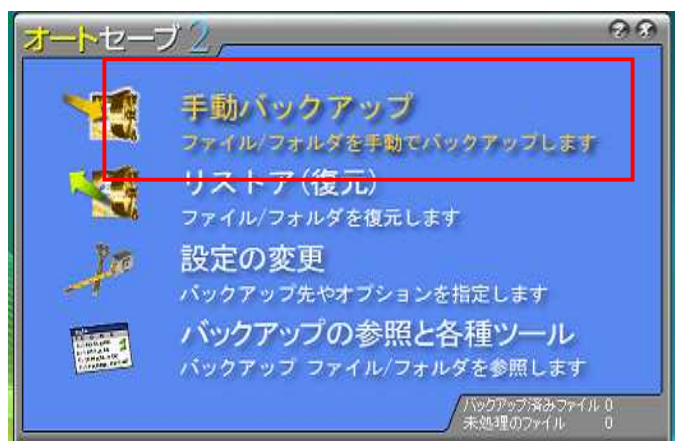
「バージョン間の最小保存時間」 1440 分
になっています。

オートセーブは過去のデータにも遡って復元ができるソフトです。

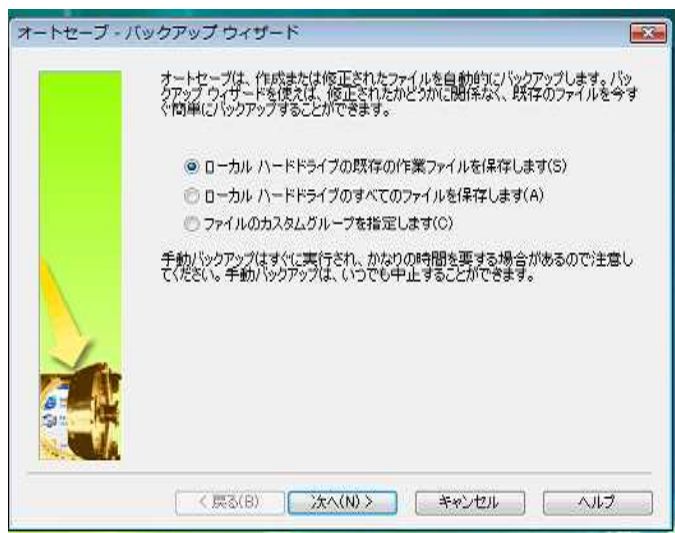
データを 24 時間(1440 分)以内に何度「更新」「上書き」しても、最新のデータ内容がバックアップされ、24時間経過したら1世代前として残す意味です。

復元で5バージョンも古いデータを戻す事はなく、余計なバックアップもいらぬ場合は「保存するファイルのバージョン数」は「2」程度にします。「最新データ」と「1世代前のみ」が残り、最新が更新されると古いものは削除されます。

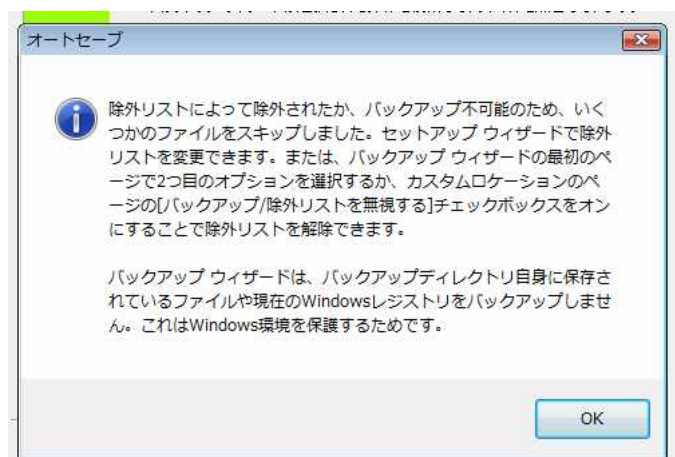
業務によって短時間に「上書き」「更新」を繰り返す、必要に応じて古いデータが必要になる時は「1440分」を「60分」等にします。1時間以上経過してデータを更新したら、オートセーブ内には「今のデータ」「60分前のデータ」「120分前のデータ...」が世代分残ります。復元時に古いバージョンを指定して戻す事ができます。



各「設定」が終わったら下段の「次へ」を押し「完了」します。タスクトレイのオートセーブアイコンをクリックして、再度メニュー画面を出し、「手動バックアップ」を選択します。



「ローカルハードドライブの既存の作業ファイルを保存します」を選択して「次へ」を押します。(先にバックアップリストで指定したものを、一度全部バックアップするという意味です)



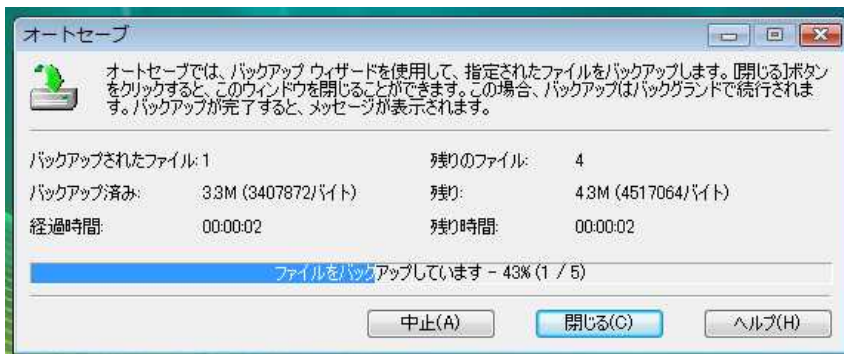
必ずこの警告が出ます。「OK」で閉じます。



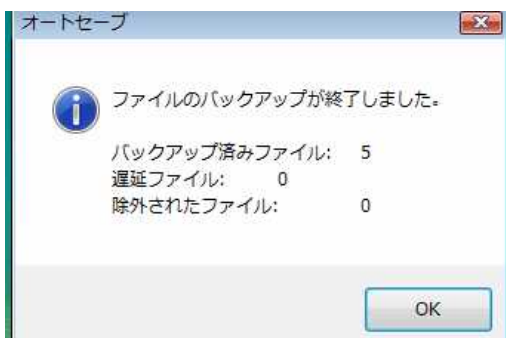
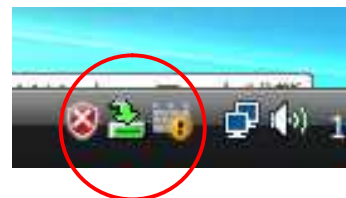
全ドライブに✓が付いていますが、バックアップ指定したデータの存在位置のドライブだけ「ファイル」や「サイズ」数値が入っていれば問題ありません。「次へ」を押します。



最終確認画面で「完了」を押します。



バックアップが開始されます。バックアップ中はタクストレイのオートセーブアイコンが緑色になります。



これが出たらバックアップ完了です。

今後は指定した位置フォルダにデータを、「新規保存」したり「上書き」して終了すると1分後にバックアップされます。

参考 バックアップ済みデータの確認方法

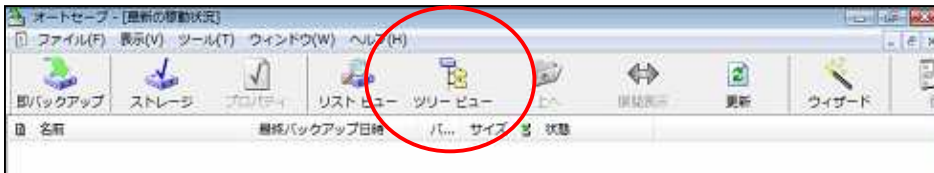


外付けハードディスク内の「backup」フォルダは圧縮されて世代管理されていますので、直接接触しないで下さい。

バックアップ済みデータはオートセーブ内から確認します。

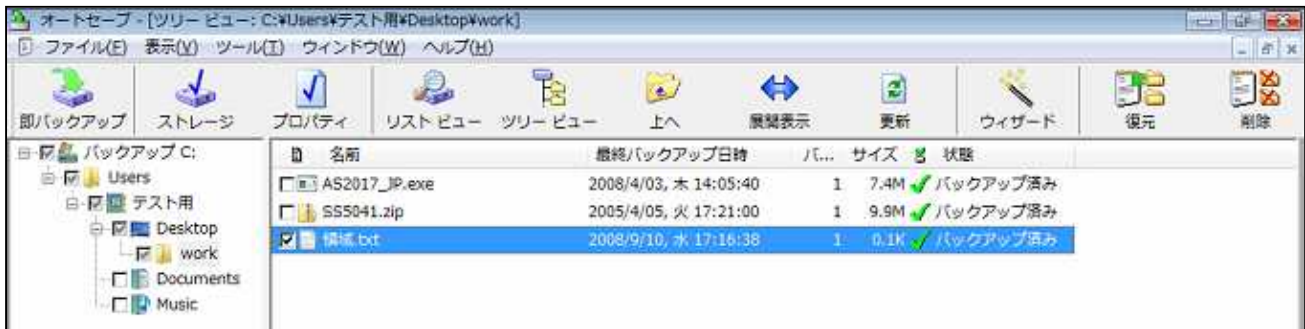
タスクトレイのオートセーブアイコンをクリックしてメニュー画面を出し「バックアップの参照と各種ツール」を選択します。

「最新の稼働状況」画面が出たら「ツリービュー」ボタンを押します。



展開処理が行われます。出た画面がバックアップ先ハードディスクに存在するバックアップしたデータ階層です。下部に「+」「バックアップ C:」等と出ますので、「+」をクリックして「-」にし階層を広げます。

左側が「フォルダ階層」、右側が選択した「フォルダ」の中のデータです。



データの右側に「最終バックアップ日時」「バージョン」情報が出ます。こちらでバックアップされているかご確認下さい。またそのデータの前にある に を入れて、こちらから画面右上にある「復元」ボタンで復元が、「削除」ボタンで不要になったバックアップを消すことができます。

古いバージョンの復元

なお「古いバージョン」の復元をする場合は、メニュー画面で「リストア(復元)」に進み、「特定のドライブ、フォルダ、ファイルを指定」に進んで、「復元するアイテム」選択画面で下にある「バージョンの表示」を押すことで、データごとの古いバージョン指定と復元が可能です。

